

# 共通科目

リハビリテーション医学専攻

【科目名】リハビリテーション医学総論Ⅰ（内科・神経内科）		【担当教員】山村 千絵、伊林 克彦、高橋 明美、小林 量作、木村 和樹、古西 勇	
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a101
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【注意事項】		(メールアドレス)	
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<ul style="list-style-type: none"><li>・研究科での履修はリハビリテーション医療方法を発展させ、さらに新しい方法開拓に繋がるものでなければなりません。</li><li>・対象とするヒトの病態の特徴をよく把握し、リハビリテーション医療における問題点をあわせて明らかにすることができるよう、事前に講義内容に関する予習をして講義に臨むようにしてください。学部時代等に学んだ内科やリハビリテーション医学に関する知識の整理をしておくといでしょう。</li><li>・障害等があつて、配慮が必要な学生は、教員と事前に相談することを推奨します。</li></ul>			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<ul style="list-style-type: none"><li>・この科目は6人の教員が各々の専門分野を中心に、リハビリテーション医学（内科・神経内科）領域と関連付けながら講義するオムニバス科目です。コーディネーターは山村が行います。全体を通じてのお問い合わせは山村までお願いします。</li><li>・受講する学生の背景知識や理解度を確認・考慮しながら進めていきます。</li><li>・双方向性の対面授業とし、ディスカッションを取り入れていきます。</li><li>・生成AIについては利用可の場面を限定します。使用できる場面については各教員の指示に従ってください。</li></ul>			
【講義概要】			
(目的)			
<p>どの講義も共通して、生命とは何かを考えていきます。それに対して、誰も「正しい答え」というものは持ち合わせていません。従って誰でも自由に考えて良いです。大いにディスカッションしていきましょう。</p> <p>●当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>			
(方法)			
<ul style="list-style-type: none"><li>・一般医学の中でも特に本学が開設している、研究科の各コースにかかわりの深いリハビリテーション医学を中心に学んでいきます。このため、広範な医学の中でも比較的限られた分野を選択的に履修することになります。</li><li>・試験・レポートのフィードバック方法：メールや面談などで個別対応するか、レポート等にコメントを付して返却するかのどちらか、もしくは両方で対応します。。</li></ul>			
【一般教育目標 (GIO)】			
<ul style="list-style-type: none"><li>・摂食嚥下障害、高次脳機能障害、運動機能科学、心の健康科学、言語聴覚障害のそれぞれのコースにかかわりの深い疾患病態とその対応について学ぶ。</li><li>・医学は科学が基本である、という原則を理解する。</li></ul>			
【行動目標 (SB0)】			
<ul style="list-style-type: none"><li>・各回の講義内容に関わる疾患の要因や病態・障害、及び、そのリハビリテーション等について説明できる。</li><li>・上記について、臨床現場での展開や応用に繋げていくことができる。</li><li>・各自の研究テーマと関連付けて深く考察することができる。</li></ul>			
【教科書・リザーブドブック】			
指定しません。配付資料などを準備します。			
【参考書】			
特に必要としません。配付資料などを準備します。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPA制度に関する規程に従う。 レポート90%、その他（学修に取り組む姿勢）10%の割合で評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	健康と生活機能の評価—国際生活機能分類（ICF）の基礎—	担当：古西勇  講義・ディスカッション	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考える。	90分  90分
2	リハビリテーション医学領域でのICFの応用	担当：古西勇  講義・ディスカッション	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考える。	90分  90分
3	運動療法の理論	担当：高橋明美  講義・ディスカッション	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考える。	90分  90分
4	脳血管障害後の身体及び運動機能	担当：高橋明美  講義・ディスカッション	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考える。	90分  90分
5	生活習慣病	担当：木村和樹  講義・ディスカッション	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考える。	90分  90分
6	アルツハイマー病	担当：伊林克彦  講義・ディスカッション	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考える。	90分  90分
7	パーキンソン病の病態と対応	担当：小林量作  講義・ディスカッション	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考える。	90分  90分
8	嚥下障害と誤嚥性肺炎	担当：山村千絵  講義・ディスカッション	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考える。	90分  90分

【科目名】 リハビリテーション医学総論Ⅱ（外科・整形外科）		【担当教員】 高橋 明美
【授業区分】 共通科目	【授業コード】 a 102	(メールアドレス) a_takatashi@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	
【単位数】 1	【コマ数】 8コマ	(オフィスアワー) 月-木9:00-18:00金13:00-18:00
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) ・授業は講義形式で行う。また、講義で教授した内容についてはレポートにまとめ提出する。 ・本科目は、リハビリテーション医学における外科・整形外科分野の基本となる内容である。最近の話題も含めて講義を進める。運動機能科学コース以外のコースの方も興味を持って出席いただきたい。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) ・レポート作成をする上で、生成AIの使用は認めません。		
<b>【講義概要】</b> (目的) 近年のリハビリテーションの重要な役割は、「障害の予防」である。外科・整形外科分野においては「骨・関節・脊髄の痛みによる活動性の低下の予防」「運動器疾患対策の推進」が課題となっている。また、外科分野においては、がん医療推進に伴うがん患者のリハビリテーションが重要課題となっている。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う		
(方法) トピックス的な内容も含めて教授し、医療や介護分野における運動器リハビリテーションについての理解を深める。		
<b>【一般教育目標 (GIO)】</b> リハビリテーション医療の中で、運動器リハビリテーションの対象となる疾患や症状、リハビリテーションの方法を理解する。また、医療や介護分野における運動器リハビリテーションの役割について学ぶことで、「障害の予防」に対する理解を深める。		
<b>【行動目標 (SB0)】</b> ・近年のリハビリテーションの役割について説明できる ・運動器リハビリテーションの意義について説明できる ・各種運動器疾患のリハビリテーションについて説明できる		
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> プリントを配布する		
<b>【参考書】</b> その都度紹介する		
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポートとその他の成績で総合的に評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーションの変遷 —近年のリハビリテーションの課題と方向性 障害 の発生予防に視点を置いたリハビリテーションを どのように展開していくか	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識を整理すること  配布講義資料を復習	90  90
2	運動器リハビリテーション① ロコモティブシンドロームに視点を置いたリハビ リテーションの展開	講義	予習：ロコモについて準備学習  配布講義資料を復習	90  90
3	運動器リハビリテーション② 「ロコモ」「サルコペニア」「虚弱」との関係に ついて	講義	予習：サルコペニアについて準備学 習  配布講義資料を復習	90  90
4	身体的虚弱 (Frailty) に対するリハビリテーショ ン Frailtyの構造とリハビリテーション (評価から治療、予防まで)	講義	予習：フレイルについて準備学習  配布講義資料を復習	90  90
5	骨・関節疾患のリハビリテーション 関節リウマチや変形性関節症に代表される骨関節 疾患の病態からリハビリテーション	講義	予習：骨関節疾患について準備学習  配布講義資料を復習	90  90
6	疼痛のリハビリテーション 種々の運動器疾患に伴う疼痛に対する評価から治 療—CRPSとの関連	講義	予習：疼痛について準備学習  配布講義資料を復習	90  90
7	脊椎疾患のリハビリテーション 腰椎椎間板ヘルニアや頸椎症に代表される脊椎疾 患の病態からリハビリテーション	講義	予習：脊椎疾患について準備学習  配布講義資料を復習	90  90
8	外・整形外科分におけるリハビリテーション まとめ 課題	講義	予習： 配布講義資料を復習	90  90

【科目名】医療倫理		【担当教員】山村 千絵
【授業区分】共通科目	【授業コード】A103	(メールアドレス) gskanri2020@nur05.onmicrosoft.com
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 月-金9:30-16:30 大学院事務で対応
【注意事項】  (受講者に関わる情報・履修条件) 特になし       (受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成系AIの利用は不可とする。		
【講義概要】  (目的) 実験計画を立てるにあたり、必要となる研究倫理について理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。    (方法) e-ラーニングを使用する。		
【一般教育目標 (GIO)】 研究に向かう基礎力を習得するために、研究倫理について具体的に理解する。       【行動目標 (SBO)】 個人情報保護など研究倫理厳守の重要性について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 特になし		
【評価に関わる情報】  (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規定およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>公的研究費の取扱い</li> <li>責任ある研究行為について</li> </ul>	e-learning	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	90分  90分
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究における不正行為</li> <li>データの扱い</li> </ul>	e-learning	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	90分  90分
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同研究のルール</li> <li>利益相反</li> </ul>	e-learning	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	90分  90分
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーサiership</li> <li>盗用（生命医科学系）</li> </ul>	e-learning	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	90分  90分
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピア・レビュー（生命医科学系）</li> <li>メンタリング</li> </ul>	e-learning	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	90分  90分
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命倫理学の歴史と原則、そしてルール作りへ</li> <li>研究倫理審査委員会による審査</li> </ul>	e-learning	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	90分  90分
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究における個人に関わる情報の取り扱い</li> <li>研究におけるインフォームド・コンセント</li> </ul>	e-learning	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	90分  90分
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な配慮を要する研究対象者</li> </ul>	e-learning	予習：講義テーマに関する内容を事前に学んでおく。  復習：学修した内容の復習と修士研究への展開を考える。	90分  90分

【科目名】研究 methodology		【担当教員】山村 健介、八木 稔	
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	A104
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件) 特になし			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 全回の聴講を希望する 初回講義後、次回講義までに準備すべき学習課題を提示する。 生成系AIの利用は禁止とする。違反した場合は、学内の規定に則って適切な処置をする。			
【講義概要】			
(目的) 学位授与の方針と当該授業科目の関連：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う			
(方法) 山村：これから学位研究のプロジェクトを立ち上げるにあたり、無理のない実験計画を立てるために必要な知識をディスカッションを交えながら解説します。 「試験・レポートのフィードバック方法」レポートにコメントをつけて返却します。 八木：統計学をベースにした研究の特徴と考え方について講義します。「レポート」については、提出後に解説するか、あるいはコメントを付けて返却します。			
【一般教育目標 (GIO)】			
山村：研究の基本的な進め方を身につけるため、研究計画の立案に必要な基礎知識を理解する。 八木：研究における統計学の考え方と方法を具体的に理解する。			
【行動目標 (SB0)】			
科学的研究とは何かを説明できる。研究の方法には種々のものがあるので、それぞれの特徴を列挙する。 学術論文の構成を説明できる。アイデアと仮説の違いを説明できる。 仮説に基づいて実験計画をたてることができる。			
【教科書・リザーブドブック】			
山村：プリントを配付する。 八木：資料を配付する。			
【参考書】			
山村：随時説明する。 八木：随時説明する。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 受講時のディスカッションでの積極性、発言内容などのパフォーマンス50%、レポート50%の割合で評価する。			



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50				50	100
評価 指標	取り込む力・知識			20				10	30
	思考・推論・創造の力			20				10	30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢			10				10	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	データあるいは変数の尺度とその分類について講義する。観察研究、分析研究(コホート研究、症例対象研究)および介入研究、それぞれの特徴と考え方について講義する。 講義に関するレポートを課す。	講義(八木)	予習：量的及び質的な尺度について調べておくこと。左記3つの研究様式(観察・分析・介入研究)について調べておくこと。復習：課題を解きレポートとして提出すること。	180
2	前回の講義内容の確認(前回レポートの解説を含む)統計的検定(1) カイ二乗検定およびフィッシャーの確率検定、オッズ比、および相対危険度について講義と演習を行う。講義に関するレポートを課す。	講義と演習(八木)	予習：カイ二乗検定について調べておくこと。 復習：課題を解きレポートとして提出すること。	180
3	前回の講義内容の確認(前回レポートの解説を含む)統計的検定(2) t検定および分散分析について講義と演習を行う。講義に関するレポートを課す。	講義と演習(八木)	予習：平均と標準偏差について調べておくこと。 復習：課題を解きレポートとして提出すること。	180
4	前回の講義内容の確認(前回レポートの解説を含む)相関と回帰統計的検定(3) 相関係数、相関と因果関係、および回帰分析について講義と演習を行う。講義に関するレポートを課す。	講義と演習(八木)	予習：相関と回帰の基本的な知識について調べておくこと。 復習：課題を解きレポートとして提出すること。	180
5	科学的な研究方法とはー研究の種類 学術論文の構成	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション(山村)	準備学修：各自の研究テーマを考えておくこと。 事後の展開：各自の研究テーマにあった総説論文、原著論文を1編ずつ探すこと。	180
6	アイディアと研究仮説の違い 仮説の立て方	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション(山村)	準備学修：上記の原著論文を一読しておくこと。 事後の展開：各自の研究テーマについて総説論文の情報を活用しながら仮説を複数立てること。	180
7	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法	ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション(山村)	準備学修：上記仮説の実現性を検討しておくこと。 事後の展開：立てた仮説の妥当性を裏付ける文献を検索すること。	180
8	文献の読み方 軌道修正の必要性ー研究例紹介 口頭試問	口頭試問・ディスカッション・ディベート・プレゼンテーション(山村)	準備学修：上記仮説の実現性を検討しておくこと。 事後の展開：立てた仮説の妥当性を裏付ける文献を検索すること。	180

【科目名】		研究方法論	【担当教員】	内山 千鶴子、都地 裕樹
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	A104(T)	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	都地：tsuji@meiji.ac.jp 内山：c.uchiyama@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) (内山) 随時メールで (都地) メール
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
講義形式であるが、問題意識を形成し常に研究課題を意識して臨んで欲しい。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
復習に十分時間をかけ、不明・不理解な箇所があった場合は次回に必ず質問し解決していく積極性をもって受講すること。				
【講義概要】				
(目的)				
都地：統計学の基本および統計的検定の方法を学び、実用に即したデータ処理が行えるようになる。				
内山：学位研究のプロジェクトを明確化できるようになる。				
・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
都地：実験で得られたデータに対する統計学的解析は必要不可欠である。統計学の基礎的な考え方、用語、分析方法の意味、および統計的検定の方法を学習し、その実地的な適用の仕方について学ぶ。				
内山：研究プロジェクトを立ち上げるにあたり、実験計画を立てるのに必要な知識を議論しながら検討し明確化していく。				
レポートのフィードバックは、コメントを付して返却するがメールでも質疑に応じる。				
【一般教育目標 (GIO)】				
・統計学的解析を具体的に理解し、適用する能力を養う。				
・研究に向かう基礎力を習得するために、必要な研究デザイン、目的設定、研究倫理、データ収集法、統計解析法、文献検索などの方法について理解する。				
【行動目標 (SB0)】				
1) 記述統計学について理解する。2) 推測統計学について理解する。3) 仮説検定について理解する。4) 様々な統計的手法について理解する。5) 各研究方法の特徴を理解する。6) 研究のグランドデザイン、量的・質的研究について理解する。7) 個人情報保護など研究倫理厳守の重要性について理解する。8) 課題から仮説を設定し、仮説にもとづいた実験計画をたてることができる。9) 学術論文の構成、資料や文献の収集、データ支援のwebsiteやソフトの活用を理解する。				
【教科書・リザーブドブック】				
資料やプリントを配付する。				
【参考書】				
随時紹介していく。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規定およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。				
成績は、課題レポート50％、成果発表50％で評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			50	25				75
	思考・推論・創造の力				25				25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	記述統計学・推測統計学（都地） 記述統計学・推測統計学、それぞれの特徴と考え方、および相関について講義する。	講義（都地）	統計用語の基本を調べておく。課題を解きレポートとして提出する。	220
2	仮説検定（都地） 仮説検定の考え方や、t検定、F検定、 $\chi^2$ 検定について講義する。	講義（都地）	課題を解きレポートとして提出する。	220
3	分散分析について講義を行う。	講義（都地）	課題を解きレポートとして提出する。	220
4	ノンパラメトリック検定の紹介および、これまでの講義のまとめを行う。	講義（都地）	これまで学んだ統計知識を整理する。	220
5	科学的な研究のグランドデザイン ・科学的な研究の基本、課題の設定、仮説に基づいた実験計画プランニングー研究の種類、学術論文の構成	講義（内山）	各自の研究テーマを考え、それに基づいた総説論文を探す。	220
6	論理のまとめ方の流れ ・先行研究文献の検索、読み方 ・仮説の設定、パイロット研究 ・研究倫理の重要性	講義・演習（内山）	総説文献の情報を活用しながら仮説を複数立ててみる。	220
7	研究方法 ・量的研究・質的研究 ・縦断研究・横断研究 ・調査研究・症例研究 ・その他の研究方法	講義・演習（内山）	仮説の実現性を検討する。 研究方法を選択する。	220
8	神経心理学研究 ・脳の機構と構造を基盤とする根拠に基づく科学研究および臨床研究とその例	講義（内山）	立てた仮説の妥当性を裏付ける文献を検索すること。 仮研究で研究計画を立案し提出する。	220

【科目名】精神医学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a105
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ
【注意事項】		(メールアドレス)	
(受講者に関わる情報・履修条件)			
精神医学についての一般的な基本知識を得ているものとして講義を行います。 実際の診察や面接の場面を想定して、臨床力を培えるように指導します。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
資料配付は事前に配付します。 生成AIの利用は不可とします。			
【講義概要】			
(目的)			
・ 基本的なメンタルヘルス上の問題に対処できるようになること。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。			
(方法)			
・ 主な精神疾患の患者さまに対する実践的な理論と支援についての技法を学ぶ。 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標 (GIO)】			
・ 基本的なメンタルヘルス上の問題に対処できるようになること。			
【行動目標 (SB0)】			
・ 自ら考え、問題を見つけ、解決するための思考と行動を討論形式で実践する。 ・ 臨床の場面でメンタルヘルスに関する問題点を考え、解決に向けた支援を自ら構築できるようになること。			
【教科書・リザーブドブック】			
「エキスパートに学ぶ精神科初診面接」[日本精神神経学会 精神療法委員会]¥4,950			
【参考書】			
精神科医が教える聴く技術[ちくま新書]高橋和巳 著 ¥880			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート提出100%で評価を行う。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	発達の過程における主な精神疾患とその対応について マズローの発達階層説に基づき予防的な視点も含めその対処法を考察する。	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	180
2	異常と正常についてと日常化の問題病に対する姿勢と面接・支援の基本を学ぶ	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	180
3	心理検査とその用い方について 臨床における心理検査の使い方を学ぶ	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	180
4	臨床検査とその用い方について 臨床における検査データを読み取り対応できる	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	180
5	事例A 小児・児童に関わるもの	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	180
6	事例B 思考障害について	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	180
7	事例C 人格の問題を扱う事例について	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	180
8	事例D 器質疾患の関与の事例について	講義	事前学習：事前に配布する症例に対し、自分なりの意見をまとめる。事後：振り返り，何が自分にとって必要かを認知すること。	180

【科目名】 <div>公衆衛生学総論</div>		【担当教員】 <div>古西 勇</div>
【授業区分】 <div>共通科目</div>	【授業コード】 <div>a106</div>	(メールアドレス)
【開講時期】 <div>前期</div>	【選択必修】 <div>選択</div>	
【単位数】 <div>1</div>	【コマ数】 <div>8</div>	
(オフィスアワー) 来学曜日、授業終了後		
【注意事項】 <div>(受講者に関わる情報・履修条件)</div> <div>この科目の履修に際しての条件は特にありません。</div> <div>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</div> <div>グループワークに際しては、積極的に発言し、議論に参加してください。仲間の話をよく聞き、参加者が自分の意見を述べやすい環境づくりに協力してください。</div> <div>評価に関わるレポートは「自分の考えを独自性の高い（盗用の可能性のない）レポートにまとめること」が課題となります。生成AIは、自分の書いた文章を分かりやすい表現に書き換えるなど、限定した範囲で使用を許可します。</div>		
【講義概要】 <div>(目的)</div> <div>公衆衛生を身近なものとして、その基礎となる疫学と公衆衛生改善の取り組みの歴史を広い視野から捉え、公衆衛生における統計と実験計画に関する用語の使い方に慣れ、公衆衛生学の全体像を学ぶ。</div> <div>学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</div> <div>(方法)</div> <div>適宜、グループワークを実施します。グループワークの成果は各自提出してもらいます。それ以外では、配布資料等を使用して講義とクイズ等を短い間隔で繰り返します。課題レポートにコメントを付して返却します。</div>		
【一般教育目標 (GIO)】 <div>公衆衛生を身近なものとして実感する。</div> <div>公衆衛生の基礎となる疫学と世界の公衆衛生改善の取り組みの意義を、歴史をたどることで理解する。</div> <div>公衆衛生における統計と実験計画に関する用語に、使い方の違いを意識することで慣れる。</div> <div>【行動目標 (SB0)】</div> <div>公衆衛生のステークホルダーは誰か（公衆衛生は誰のものか）グループの中で自分の意見を説明できる。</div> <div>公衆衛生の基礎となる疫学が歴史に何をもたらしたか例を挙げて述べるができる。</div> <div>世界の公衆衛生改善の歴史の中から例を挙げてその取り組みの意義を述べるができる。</div> <div>公衆衛生における統計と実験計画に関する用語の正しい使い方と誤った使い方を区別できる。</div> <div>公衆衛生学の全体像について自分の考えを独自性の高い（盗用の可能性のない）レポートにまとめることができる。</div>		
【教科書・リザーブドブック】 <div>プリントを配布する。</div>		
【参考書】 <div>各回で講義内容に関連する資料を紹介する。</div>		
【評価に関わる情報】 <div>(評価の基準・方法)</div> <div>成績評価は、レポート25%、成果発表（グループワークへの参加態度を含む）25%、グループワークの提出物50%で評価を行う。</div> <div>成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。</div>		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				75	25				100
評価 指標	取り込む力・知識			5					5
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢			50					50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	公衆衛生は誰のもの？ ステークホルダーの分析	講義 グループワーク	予習：“public health”と “stakeholders”で検索して予備知識 を入手 復習：グループワークで作成したス テークホルダーのマップを見直す	90 90
2	疫学の歴史と公衆衛生 近代までの先駆者たち	講義 演習	予習：“epidemiology”で検索して近 代までの主な出来事を書き出す 復習：自分の国の疫学の歴史と近代 までの先駆者について調べる	90 90
3	世界の公衆衛生課題の変遷 世界保健機関（WHO）の年表	講義 グループワーク	予習：“World Health Organization” で検索してWHOのホームページを調 べる 復習：グループワークで作成した年 表を見直す	90 90
4	公衆衛生における疾患の頻度の測定 Prevalence, risks, ratios, odds	講義 演習	予習：“prevalence” “risks” “ratios” “odds”で検索して意味を調 べる 復習：アプリを用いてデータの入力 に慣れる	90 90
5	公衆衛生における実験的研究の設計 Cohort, case control, cross sectional	講義 グループワーク	予習：“cohort” “case control” “cross sectional”で検索して意味を 調べる 復習：グループワークで作成した研 究設計のイメージ図を見直す	90 90
6	公衆衛生における関連性の測定と分析 Odds ratio, 信頼区間	講義 演習	予習：“odds ratio”で検索して意味 を調べる 復習：アプリを用いてデータの入力 に慣れる	90 90
7	疫学研究における判定基準 ヒルの判定基準 独自性の高いレポートについて	講義 グループワーク	予習：「関連」と「因果関係」の意 味の違いを調べる 復習：グループワークで検討した意 見を見直す	90 90
8	公衆衛生における課題解決の考え方 システム思考と因果ループ図 レポート課題「公衆衛生学の全体像」について	講義 グループワーク	予習：“systems thinking”で検索し て意味を調べる 復習：グループワークで作成した因 果ループ図を見直す（オプションと して、アプリを用いて作画する）	90 90





【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	教育分野に関わる公認心理師の実践 教育分野における公認心理師の役割	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
2	教育分野に関わる公認心理師の実践 アセスメント	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
3	教育分野に関わる公認心理師の実践 カウンセリング	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
4	教育分野に関わる公認心理師の実践 コンサルテーション	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
5	教育分野に関わる公認心理師の実践 いじめ	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
6	教育分野に関わる公認心理師の実践 不登校・ひきこもり	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
7	教育分野に関わる公認心理師の実践 非行	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240分
8	教育分野に関わる公認心理師の実践 発達障がい	講義 討議 (ディス カッション、 ディベート)	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	120分

【科目名】看護教育学		【担当教員】金子 史代	
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a108
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
受講生の適正に合わせて講義資料を準備します。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
文献検討、ディスカッションにより内容を深めます。生成AIの利用は禁止します。			
【講義概要】			
(目的)			
日本における看護教育がどのように発展してきたかを日本の看護教育の歴史的背景から理解する。 さらに、今日の看護教育の特徴を学ぶとともに、看護の専門職者に必要となる生涯学習・継続学習における教育的機能を探求し考察する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法)			
各時間に提示した文献を読んで考えをまとめてくる。授業内でその考えをもとに発表と討議をする。授業の最後に討議した内容について自分の考えをレポートします。次の授業内でそのレポートへのコメントをします。			
【一般教育目標 (GIO)】			
日本における看護教育の発展とその特徴を理解し、看護職者への教育的機能を果たすために必要な知識や技術を学ぶ。今日の看護の教育の現状と課題から、看護の専門職者に必要となる生涯学習・継続学習を支援する教育を展開する基礎的な知識と技術について学習を深める。			
【行動目標 (SB0)】			
・日本の看護教育の歴史的背景から継続教育の現状と課題を説明できる。 ・看護の専門職の継続教育の展開に必要な基礎的理論を説明できる。 ・看護の継続教育を展開する基礎的な知識と技術を理解し、具体的な方略を考察できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
各時間に学習する内容の資料は前の時間に配布します。			
【参考書】			
「看護教育学」2023年度版 杉森みどり 舟島直美著、医学書院 ¥5500 「看護における人的資源活用論」2018年度版、伊部敏子 中西睦子監修、手島恵編集、日本看護協会出版会 ¥2300			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート40% 学習の準備と発言30% プレゼンテーション30%：レポートの課題は授業の前に提示します。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	30			30	100
評価 指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				30				30
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	ガイダンス 日本の看護教育学の歴史の変遷 1 ・看護教育と看護教育学について学ぶ。	講義 発表と討議	日本の看護教育学の歴史の変遷に関 係する資料を読んで発表できるよう に考えをまとめる。	180
2	日本の看護教育学の歴史の変遷 2 ・看護学教育を教育学的に研究する看護教育学を 学ぶ。 ・看護教育制度について学ぶ。	講義 発表と討議	日本の看護教育学の歴史の変遷に関 係する資料を読んで発表できるよう に考えをまとめる。	180
3	日本の看護教育学制度 1 ・教育課程の構造について学ぶ。	講義 発表と討議	日本の看護教育学の教育課程の構造 に関する資料を読んで発表できる ように考えをまとめる。	180
4	日本の看護教育学制度 2 ・カリキュラムの構成・類型について学ぶ。	講義 発表と討議	日本の看護教育学のカリキュラムの 構成・類型に関する資料を読んで 発表できるように考えをまとめる。	180
5	日本の看護教育学制度 3 ・教育方法と評価について学ぶ。	講義 発表と討議	日本の看護教育学の教育方法と評価 に関する資料を読んで発表できる ように考えをまとめる。	180
6	日本の看護教育学制度 4 ・教育方法と評価について学ぶ。	講義 発表と討議	日本の看護教育学の教育方法と評価 に関する資料を読んで発表できる ように考えをまとめる。	180
7	日本の看護教育学制度：まとめ 課題と展望 ・まとめは、日本の看護教育学の教育課程・カリ キュラム・教育方法と評価の視点で考え、課題と 展望を考察する。	発表と討議	1-6回までの内容を復習して、発表の 準備をする。	180
8	ケアリングカリキュラム 1 ・ケアリングの理解の過程を学ぶ。 病む人を理解する。 治療と回復過程にある人を理解する。	講義 発表と討議	ケアリングに関する資料を読んで 発表できるように考えをまとめる。	180

9	ケアリングカリキュラム2 ・教育的ケアリングについて学ぶ。	講義 発表と討議	ケアリングに関係する資料を読んで 発表できるように考えをまとめる。	180
10	ケアリングカリキュラム3 ・教育的ケアリングについて学ぶ。	講義 発表と討議	ケアリングに関係する資料を読んで 発表できるように考えをまとめる。	180
11	看護の継続教育の現状と課題1 ・専門職と生涯教育について学ぶ。	講義 発表と討議	看護継続教育、専門職と生涯教育に 関連する資料を読んで、発表でき るように考えをまとめる。	180
12	看護の継続教育の現状と課題2 ・新人看護職員の教育について学ぶ。 ・新人看護職員研修ガイドラインについて学ぶ。	講義 発表と討議	看護継続教育、新人看護職員の教育 に関連する資料を読んで、発表でき るように考えをまとめる。	180
13	看護の継続教育の現状と課題3 ・スペシャリストの教育を、認定看護師、専門看 護師、特定行為研修から学ぶ。・医療チームの一 員として患者中心の全体的な計画を組み実行する ことを学ぶ。	講義 発表と討議	看護継続教育、スペシャリストの教 育に関連する資料を読んで、発表で きるように考えをまとめる。	180
14	看護の継続教育の現状と課題4 ・ジェネラリストの教育をクリニカルラダーを通 して学ぶ。	講義 発表と討議	看護継続教育、ジェネラリストの教 育に関連する資料を読んで、発表で きるように考えをまとめる。	180
15	看護の継続教育：まとめ 課題と展望 ・まとめは、教育的ケアリング・看護の継続教 育・生涯教育の視点で考え、課題と展望を考察す る。	発表と討議	8回から14回までの内容を復習して、 発表の準備をする。	180

【科目名】		臨床解剖学		【担当教員】	松村 博雄
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a109	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件) 特になし					
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 生成AIの利用を許可。授業内、予復習、成果物作成において、自由に利用できる。ただし、使用した場合はその旨を記載すること。					
【講義概要】					
(目的) 上肢・下肢の局所解剖学的な構造と機能、および中枢神経系の解剖学的な構造、運動と感覚の伝導路を学習する。また、筋肉の破格について学習し、人体の多様性を認識する。これらの局所解剖学的な知識を、具体的な臨床例に応用することを学ぶ。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法) 主として、配付資料を使用して講義を行う。 試験・レポートのフィードバック方法：講義の最後に講義全体の課題を出題する。課題は採点后、解説を加えて各自に返却する。					
【一般教育目標 (GIO)】					
人体解剖学の知識を臨床の場に応用するために、局所解剖学・中枢神経解剖学について理解する。					
【行動目標 (SBO)】					
1. 肘関節・手関節の局所解剖学を説明できる。 2. 腕神経叢の構造を説明できる。 3. 運動・感覚の伝導路について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教員が準備した配布資料のみ。					
【参考書】					
特になし					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、講義終了後、理解度確認テストを出題し、この結果100%で評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	上肢の局所解剖学（１） 外側上顆炎	講義	肘関節を構成する骨性成分	180分
2	上肢の局所解剖学（２） 前腕の局所解剖学	講義	前腕の筋肉について	180分
3	足根管症候群 足関節の靭帯と筋、足根管の構造 腰・仙骨神経叢の構造	講義	足関節を構成する骨性成分	180分
4	脊髄の伝導路 ブラウン・セカール症候群	講義	脊髄の解剖学	180分
5	脳幹の伝導路 小脳，脳幹，脊髄の動脈支配	講義	脳幹の解剖学	180分
6	間脳と大脳の関係 運動と感覚の伝導路（１）	講義	間脳の解剖学	180分
7	運動と感覚の伝導路（２） 伝導路の障害で起こる症状について ウェーバー症候群	講義	大脳の解剖学	180分
8	破格筋について：胸骨筋の解剖学 腕神経叢 腕神経叢から出る神経の行く末 腕神経叢と腋窩動脈の関係	講義	胸壁と腋窩の構成について	180分

【科目名】		神経解剖学	【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a115	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火曜日午後
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) 授業の開始前に人体の名称や機能をあらかじめ学んでおく。特に病巣との関連を含め、神経系の解剖学的な名称及び役割が必要となってくる。 授業終了後、次の講義へのステップとしてその日の十分な復習が望まれる。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識) この講座を最後まで学ぶ為にできるだけ多くの解剖学書・神経学書及び神経解剖学の成書・辞書等を読み砕く必要がある。 生成AIの利用は不可とする。				
<b>【講義概要】</b> (目的) 日常生活活動における言語・行為・認知等の障害をきたす高次脳機能障害を理解する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法) 日常生活活動における言語・行為・認知等の障害をきたす高次脳機能障害を理解するために、頭部や脳幹の中樞神経系の機能について十分な時間を割き、より高度な科目への予備的授業を目標とする。				
<b>【一般教育目標 (GIO)】</b> 脳血管障害や頭部外傷等による神経心理学的症状を理解するために、大脳を含めた中樞神経系の機能や病態について学び将来のリハビリテーション分野での知識を高める。講義修了時には内容の50～60%の達成率を目指す。				
<b>【行動目標 (SB0)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年における失語・失行・失認について歴史的概観を説明できる。</li> <li>・個々の神経心理学症状について解剖学的病巣を述べることができる。</li> <li>・中樞神経系における灰白質と白質の機能について説明できる。</li> <li>・脳血管障害や頭部外傷及び脳腫瘍等におけるCTやMRIの基本的な見方が言えるようにする。</li> </ul>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 特になし。授業開始時プリントを配付。				
<b>【参考書】</b> 半田肇：「神経局在診断—その解剖、生理、臨床—」				
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 試験80%、レポート20%の割合で評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	神経心理学の歴史（大戦前） ブローカやウェルニッケが明らかにした失語症について説明する。	講義	脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
2	神経心理学の歴史（大戦後） リープマンの失行の概念やその他の著名な研究者について解説。	講義	脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
3	大脳・脳幹・小脳・脊髄について 4つの中枢神経について理解する。	講義	脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
4	大脳・脳幹・小脳・脊髄について 4つの中枢神経について理解する。	講義	脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
5	大脳・脳幹・小脳・脊髄について 4つの中枢神経について理解する。	講義	脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
6	前頭葉の機能について 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
7	前頭葉の機能について 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉の名称と機能について学ぶ。	講義	脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
8	頭頂葉の機能について 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	脳の機能を含む中枢神経系の学習	220



9	頭頂葉の機能について 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
10	側頭葉の機能について 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
11	側頭葉の機能について 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
12	後頭葉の機能について 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
13	後頭葉の機能について 大脳における前頭葉・頭頂葉・側頭葉及び後頭葉について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
14	脳神経について 神経系における 1 2 対の脳神経について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220
15	脳神経について 神経系における 1 2 対の脳神経について。	講義	大脳の機能を含む中枢神経系の学習	220

【科目名】		神経心理学	【担当教員】	内山 千鶴子
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a 110	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	c. uchiyama@nur. ac. jp
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 随時メールで質問・相談に応じます
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
毎回教科書や資料の予習と前回授業の復習を行ってください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
双方向授業のため、問題意識・課題をもって積極的な意見や疑問のやりとりを行いましょう。 生成AIの活用は認めますが、どのように使用したか明確にしてください。特に、レポートでは生成AIによる意見とご自分の意見を明記してください。				
【講義概要】				
(目的)				
・高次脳機能の構造や機能およびその障害を常に脳全体活動を見据えて的確に把握、理解できるようにします。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培います。				
(方法)				
・毎回事前に資料を配布し、教科書と資料を中心に講義します。また、必要に応じてグループ討論や発表を実施します。 ・課題やレポートのフィードバックは、講義内または補講追加にて説明します。				
【一般教育目標 (GIO)】				
・全体としての機能系である脳活動を理解するために、脳部位と高次脳機能の働き、およびその障害の様々な症状の意味を修得します。				
【行動目標 (SBO)】				
1) 高次脳機能障害である多様な症状についてその共通する構造・機能因子を探究する観察の重要性が説明できる。 2) 視覚・聴覚・その他の感覚、とこれらの統合・運動・言語・記憶等における脳機能システムおよびその障害の発現と症状を脳ネットワークとともに解釈できる。 3) 脳の各領域と連合野の役割および左右半球・皮質下との関連について知り、症状理解の方法を実施できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書；山鳥重、神経心理学入門、医学書院、1986年、¥7,040（税込） 毎回、追加資料を配付する。				
【参考書】				
ルリヤ R、神経心理学の基礎-脳の働き、鹿島晴雄訳、創造出版、2019年、¥8,800（税込） 松田実、初心者のための神経心理学、新興医学出版社、2022年、¥6,600（税込）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従います。 成果発表を課する。成績は、講義中の小テスト50%、成果発表50%の割合で評価します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50		50				100
評価指標	取り込む力・知識				25				25
	思考・推論・創造の力		25						25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢		25						25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習・教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	神経心理学の方法と神経解剖学についての入門的知識 ・症状分析における「解離」と症状把握における総合的な考え ・大脳の基本構造と階層構成	講義	教科書(p1-34)を読み、まとめる。	220分
2	背景症状の把握と一般症状 ・症状評価の手順と背景情報 ・一般症状の基本的知識	講義	・教科書(p35-55)を読む。 ・一般症状の担当部分をまとめる。	220分
3	視覚の高次障害 ・大脳性視力障害 ・変形視と幻視 ・失認および関連障害 ・視空間知覚障害	講義	・教科書(p56-91)を読む。 ・担当部分をまとめる。	220分
4	聴覚の高次障害 ・聴力の障害 ・皮質性聴覚障害 ・幻聴と錯聴 ・聴覚失認	講義	・教科書(p92-112)を読む。 ・担当部分をまとめる。	220分
5	体性感覚の高次障害 ・皮質性感覚障害 ・触覚性幻覚 ・触知覚障害 ・知覚抗争	講義	・教科書(p113-128)を読む。 ・担当部分をまとめる。	220分
6	運動の高次障害 ・利き手 ・高次運動障害 ・失行 ・症例提示	講義	・教科書(p129-156)を読む。 ・担当部分をまとめる。 ・提示された症例の症状を分析する。	240分
7	言語の高次障害 ・言語障害の主要症状 ・失語の臨床型 ・失語の病巣 ・症状分析と症例提示	講義・討議	・教科書(p157-247)を読む。 ・担当部分をまとめる。 ・提示された症例の症状を分析する。	240分
8	記憶の障害 ・記憶の構造 ・健忘症状群にみられる症状 ・健忘症状群 ・症状分析	講義・討議	・教科書(p262-285)を読む。 ・担当部分をまとめる。 ・提示された症例の症状を分析する。	220分

【科目名】リハビリテーション臨床学		【担当教員】的場 已知子
【授業区分】共通科目	【授業コード】a111	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	受講者に直接伝えます
【単位数】1	【コマ数】8コマ	(オフィスアワー) メールで対応します
【注意事項】  (受講者に関わる情報・履修条件) 心理学の基礎知識(国試レベル)を習得している人を対象に実践に活用することを前提に指導を行います。 学外で授業を行うため、交通費等が発生する場合があります。  (受講のルールに関わる情報・予備知識) 自らの意見を持ち、積極的に学び、お互いに技術を高めあう姿勢を欠かさないこと。 生成AIの利用は不可とします。		
【講義概要】  (目的) 患者に対するカウンセリング技術を習得し、主に精神病理学的な知識と専門技術を習得する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う  (方法) リハビリテーション領域の患者は、心理検査のアプローチに対して抵抗を感じる方々がほとんどである。医療に必要な心理学では検査をすることを主観とするのではなく、患者に対するカウンセリング技術を習得し、主に精神病理学的な知識と専門技術を習得することを目的として実践指導を展開するものである。 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。		
【一般教育目標(GIO)】 ・実際に応用できる基礎知識を学び、臨床に活かせる技術を身につけることができる。  【行動目標(SBO)】 学んだ基礎知識を応用するために様々なアプローチを用い、自ら学び考え、実践できるように独自で組み立てられる能力を得ること。		
【教科書・リザーブドブック】 特になし		
【参考書】 『臨床心理学講義(杉浦京子) 朱鷺書房, 2008, ¥2,800』『「聞く」ことの力, 鷺田清一, (TBSブリタニカ)』『現代言語論, 立川健二・山田広昭, (新曜社)』『心理査定実践ハンドブック, (創元社)』		
【評価に関わる情報】  (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 80%はレポートをもって評価する。20%は課題への取り組み等		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーションにおける臨床心理学とは、	実践（臨床体験）ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する。	180
2	人間理解の方法	実践（臨床体験）ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する。	180
3	臨床心理学の基礎理論	実践（臨床体験）ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する。	180
4	心理学援助の方法Ⅰ	実践（臨床体験）ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する。	180
5	心理学援助の方法Ⅱ	実践（臨床体験）ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する。	180
6	心理学援助の方法Ⅲ	実践（臨床体験）ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する。	180
7	様々な分野における連携と応用Ⅰ	実践（臨床体験）ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する。	180
8	様々な分野における連携と応用Ⅱ	実践（臨床体験）ケース検討	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り，洞察する。	180

【科目名】		リスク管理学	【担当教員】	田中 裕
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a112	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	tyutaka@dent.niigata-u.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 随時メールにて質問相談に応じます
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) この科目は臨床の現場において求められる基礎的医学知識・技術（リスク管理）を養う科目ですので、よく復習を行っておいでください。  (受講のルールに関わる情報・予備知識) 全ての講義に出席することが望ましい。また講義後には内容の復讐を十分に行うことが望ましい。 なお、生成系 AI の利用は全面的に許可しています。授業内、および、予復習、成果物（レポート等含む）作成において自由に利用してください。使用した場合にその旨をレポート等に記載してください。				
<b>【講義概要】</b> (目的) ・近年の高齢社会では、急性循環不全・呼吸不全など、医療現場において患者の生命を脅かすような不測の緊急事態に遭遇することは決して少なくない。特に、超高齢者や摂食・嚥下障害者では経口摂取を目指して援助を行う時には、誤嚥、窒息、肺炎などのリスクを常に考慮しなければならない。本講義では医療現場における「患者の全身状態の把握方法とリスク管理」を学び、適切かつ安全な医療の提供を行うための知識と技術を習得するとともに、「緊急事態発生時の救急対応法」を習得する。・当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。」 (方法) 主として配付資料を使用して講義を行います。また講義中に講義内容に準じた実習（各種バイタルサイン測定、患者評価法、心肺蘇生法、等）やケースディスカッションも適宜併用しながら行います。 講義終了時には課題を提示します。課題に対するレポートの解答例は授業内で説明します。				
<b>【一般教育目標 (GIO)】</b> 臨床の現場で起こりうる患者の全身的偶発症や医療事故の発生防止のための知識、防止対策、患者の全身状態把握方法、さらには医療事故発生時の緊急的・応急的対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような基礎的な医学的知識と技術を習得する。				
<b>【行動目標 (SB0)】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) バイタルサインとその評価方法について説明できる</li> <li>2) 全身疾患とそのリスク、患者の総合的全身状態評価について説明できる</li> <li>3) 救急蘇生 (BLS (Basic Life Support)、ACLS (Advanced Cardiovascular Life Support)) について説明できる</li> <li>4) 心肺蘇生法を適切に行える</li> <li>5) A E Dを適切に使用できる</li> </ol>				
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 授業開始時に授業プリントを配付する。				
<b>【参考書】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 瀬尾憲司：歯科医院のためのAHAガイドライン2020に沿った一次救命処置、医歯薬出版（4,180円(税込)）</li> <li>2) BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン2020準拠、株式会社シナジー（4,840円(税込)）</li> </ol>				
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 本講義の記述式試験を実施する。試験40%、レポート40%、授業・課題への取り組み20%の割合で総合的に評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		40		20			100
評価 指標	取り込む力・知識	30		15		5			50
	思考・推論・創造の力	10		15		5			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力			5		5			10
	学修に取り組む姿勢			5		5			10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リスク管理学 総論	講義	予習：講義で学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学習した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	予習90分 復習90分
2	リスク管理学 総論2 ・バイタルサインの読み方・考え方	講義・実技	予習：講義で学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学習した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	予習90分 復習90分
3	リスク管理学 各論1－1 ・循環器系患者のリスク管理	講義・実技	予習：講義で学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学習した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	予習90分 復習90分
4	リスク管理学 各論1－2 ・呼吸器系疾患患者のリスク管理	講義・実技	予習：講義で学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学習した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	予習90分 復習90分
5	リスク管理学 各論1－3 ・代謝・内分泌系疾患患者のリスク管理	講義・実技	予習：講義で学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学習した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	予習90分 復習90分
6	リスク管理学 各論1－4 ・その他の全身疾患を有する患者のリスク管理	講義・実技	予習：講義で学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学習した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	予習90分 復習90分
7	リスク管理学 各論2－1 1) 成人・小児・乳児の心肺蘇生法 2) AEDの使用法 3) 窒息の解除法	講義・実技	予習：講義で学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学習した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	予習90分 復習90分
8	リスク管理学 各論2－2 ・生命を脅かす緊急事態の評価と対応 (ACLS:Advanced Cardiovascular Life Support)	講義・実技	予習：講義で学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学習した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	予習90分 復習90分





【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力			80					80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	職場とは何か ・人が働くことの意味や意義等を学び考える ・職場の諸問題と人の関係を考える ・職場の使命と個人について考える	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	180
2	職場と組織の責任について学ぶ ・組織の負うべき責任について ・組織の諸形態と特徴について ・組織にマネジメントが必要である理由	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	180
3	組織運営のマネジメントについて学ぶ ・目標の設定、実践とフィードバック (PDCA) ・管理とマネジメントの相違を知る	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	180
4	組織のリスクとリスクマネジメントを学ぶ ・組織運営を脅かすリスクの全体像について知る ・ガバナンス、内部統制やCSR等について学ぶ ・リスクマネジメント手法やBCP等について	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	180
5	組織の成長戦略の必然性を学ぶ ・組織の成長と衰退と寿命について知る ・組織の衰退理由を学ぶ ・改革 (イノベーション) の意義を学ぶ	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	180
6	サステナブルな組織と成長戦略について学ぶ ・サステナブルな組織とは ・改革・革新のための分析手法を学ぶ ・分析指標とその概要を学ぶ	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	180
7	職場と人財マネジメントの重要性を学ぶ ・職場の成長とは人の成長である ・人財育成と正しい人財評価について学ぶ ・労務管理と人材 (財) の関係	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	180
8	職場の日常運営への活かし方について考える ・これまでの学修を現場で生かすには ・良い職場にするための日々のあり方	講義	・学修内容の復習を行う ・学修内容と各自の職場の比較を行う	180



【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50			50				100
評価 指標	取り込む力・知識	50			20				70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				10				10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	「教える」の意味を説明できる。教育目標の階層性。ブラグマティズムにおける作業の意味。「教える」の2つの用法、教授錯覚、教育施設の目標、ポリシー、コンピテンシー	講義	配付資料に基づき、学修したキーワードの意味を確認するとともに、教育目標に該当する部分を一読し、疑問点を抽出する。	180
2	教育目標の種類 一般目標、行動目標、教育目標の3領域が示している意味。	講義	配付資料に基づき、学修したキーワードの意味を確認するとともに、情意領域の学習目標作成に該当する部分を一読し、疑問を抽出する。	180
3	教育目標① 情意領域の学修目標作成について実際に作成演習を行う。	グループワーク	作成している学修目標の見直し及び発表準備（個人担当部分の作成作業）	180
4	教育目標② 情意領域の学修目標作成について検討し作成したものを発表する。	発表(プレゼンテーション) 討議	配付資料に基づきシラバスに該当する内容を一読し、疑問点を抽出する。	180
5	教育目標③ シラバスに記載されるべき内容	講義	配付資料に基づき、教育評価に該当する内容を一読し、疑問を抽出する（予習）。	180
6	学習評価 形成的評価、総括評価、ループリック評価、ループリック作成演習（グループワーク）	講義 グループワーク	多肢選択問題作成演習のために使用する教科書、資料を用意する。	180
7	学習評価 客観試験、多肢選択問題作成の原則 多肢選択問題作成演習（グループワーク）	講義 グループワーク	配付資料に基づき、正答率、識別指数に該当するところを一読し、疑問を抽出する。	180
8	学習評価 多肢選択問題の吟味 正答率、識別指数 修正イーベル法（グループ学習）	講義 グループワーク	全体を振り返り、疑問点を抽出する。	180